



令和5年度 4月号 校長 饗場 宏

上の写真は、入学式、1年生：はじめての給食、新任式・始業式の様子です。

今こそ 地域の“宝”、学校の“宝”との連携・協働・共通理解を図る時 地域とともにある東小学校

令和5年度がスタートしました。46名の新しい1年生を迎え、全校児童310名での新たな船出です。保護者の皆さま、地域の皆さまには、昨年度同様、「地域とともにある東小学校」の理念実現に向け、ご理解とご支援をお願いいたします。教職員も、学校教育目標「楽しみがゆきわたる～学びが楽しい学校～」の具現化に向け、一生懸命、努力する所存です。



さて、新型コロナウイルス感染症対策については、新たな状況・フェーズを迎えようとしています。例えばマスクについてはすでに3月31日から「着用は個人の判断が基本」(<https://corona.go.jp/emergency/>)とされたり、感染法上の分類が5月8日以降に変更となるという報道がされていたりすることがそれを示しています。いわゆる“ウィズコロナ・ポストコロナ”といわれる時期を迎えていく今、学校には、新たな教育の有り様を追究するという大きな宿題が課せられています。何が“コロナ”前と同様に行えるのか、何を“コロナ”と向き合いながら実施するのか、何は“コロナ”前とは変えていくべきなのか…。一筋縄ではいかない宿題です。

これとは別の宿題もあります。それは、本校の学校規模が年々小さくなっているという状況への対応です。例えば、15年前の児童数は400人でしたが本年度は310人、教員も8名減っています。当然、家庭数も減っています。一方で教科書のページ数はH17年からR2年の間に3600ページ強も増えました。つまり、少なくなるマンパワーの中にあって大規模校時代と同じ学校運営でよいのか、増えている学習をどう保証していくかという宿題です。

これらの宿題に対して、本年度は、一つ一つの教育活動の本質を見極めながら、「こういうものだ」という経験則や思い込みにとらわれず、お米を研ぐように、学校行事について、その内容や方法を分析・精選していこうと考えています。そのための味方は、地域の皆さまのご理解、保護者の皆さまとの協働、児童の多様で多彩な可能性という、東小学校伝統の“宝”です。地域や保護者の皆さま・児童と共に難しい宿題に取り組み、持続可能な学校づくり、地域とともにある学校づくりを目指してまいります。本年度も、どうぞよろしくお願いいたします。



エピソード

朝、正門前で児童をお迎えしていると、入学式直後は「だれ？」といった不思議な表情だった1年生が、最近は「おっはようございまーす！」と挨拶してくれます。たまに2年生からは「校長先生、ぜっこうちょー」と声をかけられます。学校生活に適應していく過程を感じるひとときです。

エピソード

4月から本校に赴任した先生方から、休み時間に廊下で会う児童に「こんにちは」と挨拶され感動したという話を聞きました。廊下で「こんにちは」という東小児童の素敵な伝統をこれからも守っていきたいです。

エピソード

自転車乗車時のヘルメット着用が努力義務となりました。本校の教頭先生もヘルメット着用で、朝の通学路を巡回しています。教頭先生からは、班長の優しい声かけや列を守って歩く姿など、児童の素敵な様子を聞いています。

児童の笑顔と未来のため、地域やご家庭の皆さまとともに、児童の健やかな成長を期す「地域とともにある学校」を創り上げていきたいと思ひます。本校教育活動への変わらぬご支援・ご協力をお願い申し上げます。